

日本の合唱史・再考

わたしたちにとって
合唱のいとなみとは
何だったのか？

日本における合唱文化のいとなみは、既成一世紀以上にわたる歴史を刻印している。しかし、合唱文化の歴史と社会の関わり、現在の課題、さらに将来の展望が体系的に考察される機会は、決して多くはない。2019年2月に、東京都合唱連盟が、都連特別セミナー「平成の終わりから合唱の未来を考える」を開催し、議論がなされたのも、このような問題意識の現われのように思われる。

この全3回シリーズでは、「日本の合唱史」（青弓社刊）編者の戸ノ下と、作曲・演奏家である寺嶋陸也の共同プレゼンツにより、日本の近現代史に合唱文化を位置付けた上で、改めて日本の合唱文化を再考し、現状そして将来の課題を考えてみたい。（戸ノ下達也）

第1回 (2019年9月26日)

1860年代から敗戦に至る 社会と「合唱」

1860年代に本格的に導入された西洋音楽が、その時々社会状況を反映しながら人々に受容され、1945年8月の敗戦に至るまでの変遷を概観した上で、社会と合唱文化のあり様を捉え直す。

第2回 (2019年11月28日)

戦後の社会と「合唱」

敗戦から現在に至る、社会と音楽の姿を概観し、時代状況と密接に連動した合唱文化のあり様を、特に戦時期から戦後への継続性を意識しながら、様々な視点から再考する。

第3回 (2020年1月30日)

合唱の姿とは

学校教育や部活動での合唱、運動体としての合唱という社会状況との連動、さらにその最前線で活躍した作曲家や演奏家の取組みなど、現在のさまざまな合唱文化の姿を見据え、さらに今後の展望を提示する。

登壇者：

寺嶋陸也
(作曲家・ピアニスト)



戸ノ下達也
(近代日本音楽史研究家)



進行：

坂元勇仁
(レコーディング・ディレクター)



第1回

2019

9/26
[木]

第2回

2019

11/28
[木]

第3回

2020

1/30
[木]

各回*午後7時 [午後6時30分開場]



学び舎 遊人

東京都千代田区西神田 2-4-1
(財) 東方学会新館 2F

各回
1,500円 (税込)

35名限定

要予約

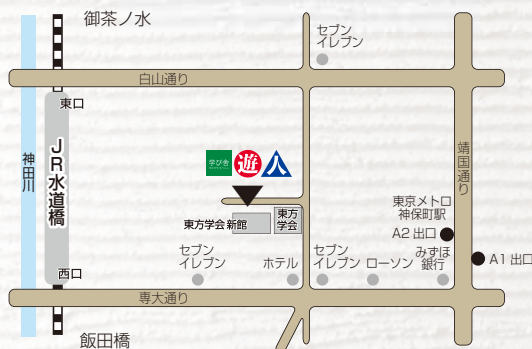
主催：ユージンプランニング

©予約・お問い合わせ：

ユージンプランニング (平日 10時~17時)

Tel 03-3239-1906 / Fax 03-3239-1907

E-mail: manabiya@yujinplanning.com



*ご予約の際はお手数ですが、イベント名をご明記下さい。